

(4) G11 Al-fateh Beljahilya School

学校名	Al-fateh Beljahilya School	場所	サヌア州、Hamden 区	訪問日	2005 年 10 月 3 日
種類	共学	シフト	午前 1-5 学年 (共学)、6-8 学年(男子クラス) 午後 6-12 学年 (女子クラス)		
生徒数	男子 : 342 女子 : 525	教員数	午前 男性 : 7 女性 : 0、午後 男性 : 1 女性 10 後から回収した質問票によると、男性 10 女性 4		

① 校長・教員・親からのヒアリング (男女別にヒアリング)

出席者：校長 (男性) 1 名、教員 (男性 2 名、女性教員 1 名)、親 (父親 1 名)、地方議員 (男性) 1 名、地区教育担当
官 (男性) 1 名

就学 要因 障害	男子	<ul style="list-style-type: none"> * 教室の過密。 * 学校が遠く、通学手段もない。 * 貧困
	女子	<ul style="list-style-type: none"> * 費用がかかる * 教室の過密 * 先生の不足
向上 対策 就学率	男子	<ul style="list-style-type: none"> * 教室の増築
	女子	<ul style="list-style-type: none"> * 教室の増築 * 裁縫の授業を行う * 女性教員を増やす
通学費用		<ul style="list-style-type: none"> * 学校費： 1-9 学年は 150YR、10-12 学年は 220YR。 * その他諸経費：男子は 2,000-3,000YR/年、女子は 10 才までは 3,000YR/年。その後はベールを購入する必要があるため 5,000YR/年。
教員		<ul style="list-style-type: none"> * 男性教員 7 名のうち、2 名が地元出身。5 名が地元以外の出身で、そのうち 3 名が学校の部屋で寝泊りをしている。 * 女性教員は 2 名がサヌア市出身。1 名は兄弟が車でサヌア市から毎日送ってくる。もう 1 名は夫がこの地域の出身である為、結婚してからこの地域に住んでいる。 * 午後は男性教員 1 名、女性教員 8 名がいるが、そのうち給料が支払われているのは女性教員 2 名のみ。残りはボランティア。男性教員は午前中に教えている先生。女性教員は地元の女性。大学を卒業した女性が 2 名、中等教育とディプロマを持っている女性が 6 名。給料をもらえるように教育省に要請をしているが、認められない。 * 教員は不足状態。1 人の教員は 1 週間に 20 クラス程度教えることとなっているが、この学校では教員が不足しているため、1 人の教員が 30 クラスを担当する。 * 教員室はない。但し、男性教員は休み時間に男性教員が寝泊りしている部屋を使用することができ。女性が使う教員室はない。さらに、午後は休み時間が全くないために、教員室があったとしても使う時間がない。もし教員室を作るのであれば、女性教員は男女別の教員室であれば嬉しい。 * 地元出身の教員は副業として農業を行っている。 * 後期中等教育を卒業したあと、女子が大学に進学するのは非常に困難。公共交通機関で 1 時間程度のところに大学があるが、女子は通えない。
父母会		<ul style="list-style-type: none"> * 父母会はない。ただし、モスクでは父親が学校について話し合っている。 * 母親が集まる機会はない。しかし、夏休みの間、学校がある村の女性を対象に識字教室や裁縫教室を行い、識字教室には 50 名の女性が集まった。
施設維持管理		<ul style="list-style-type: none"> * 清掃を行うのは生徒。授業が終わってから清掃を行う。 * 主に校長と父親が中心となって軽微な修繕活動を行う。女性教員は男性がどのような活動を行っているのか知らない。
トイレの現状		<ul style="list-style-type: none"> * 学校に 1 つトイレがある。建物の中にあるが、学校に寝泊りする 3 名の男性教員用で、生徒は使用できない。また、女性教員も使用できない。 * 男子は近くにあるモスクのトイレを使用する。女子は近所の家や自宅に帰ってトイレに行く。
その他		<ul style="list-style-type: none"> * 以前は男女共学であった。男女別学にしてほしいとの要求が高く、住民が協力をして新しい教室を建設した。しかし、依然として教室は不足している。男子は 9 学年 以降も勉強したい場合には遠くにある学校に通学できるため、この学校では女子のクラスを優先して設けることとした。

② 生徒からのヒアリング

出席者：男子生徒（6 学年、21 名）、女子生徒（6 学年、18 名）

教室の状況	<ul style="list-style-type: none"> * 6 学年の男子クラスには 40 名が登録しているが、現在は 21 名がいるのみ。ラマダンが始まる時期であり学校にこなくなっているか、または教室が過密状態であることが原因。 * 教室が一杯になると教室の外で授業を受けることになる。日光が当たると非常に暑く、家に帰ってしまう。また、女子は暑さに加えて教室の外にいと周りの人から見えてしまうので学校に来なくなる。 * 午前中の後半の授業は生徒数が減る。教室が過密であることが一つの原因であるが、もう一つの原因として、10 時からの休み時間にトイレに行くために家に帰り、そのまま学校に戻ってこない生徒がいるため。
学校への要望	<ul style="list-style-type: none"> * 教室の増築 * トイレの設置 * 塀の整備。周りから見られないような塀があれば、女子も外で運動がしたい。 * 女性教員はボランティアが多い。資格をもった教え方の上手な正規の先生を配置してほしい。
家庭での仕事	<ul style="list-style-type: none"> * 女子の方が仕事が多い。家事、作物の摘み取り、水汲み、家畜の世話が女子の仕事。 * 男子は午後に作物に水をまくのが仕事。
勉強を継続する上での問題	<ul style="list-style-type: none"> * 学校にトイレがない。6 学年の女子生徒は学校にトイレがないために一度学校に来なくなった。しかし、今年新しい教室とトイレができると聞き、復学した。生理になるとトイレがない場合には 1 週間は学校を休まなくてははいけない。 * 学校が遠い。2 時から午後の授業は始まるが、家が遠い生徒は 3 時にしか登校できない。 * 教室が不足しているため、入学を拒否される。何年も入学が拒否されてしまうと、年齢が高くなってしまったため、女子は男女別クラスがない限り親が学校に娘を送らない。低学年は共学クラスであるため、結局学校教育を全く受けられないことになってしまう。 * 母親が学校へ行くことに反対している。 * 後期中等教育以降、女子が通える学校が近くにない。



椅子が足りないため、床や窓際に生徒が座っている



6 学年の女子学級

(5) G18 Thoma Bait Sayad School

学校名	Thoma Bait Sayad School	場所	サヌア州、Nahm 郡	訪問日	2005 年 10 月 3 日
種類	共学	シフト	午前シフトのみ		
生徒数	男子：590 女子：398	教員数	男性：12 女性：1		

① 男性（校長・教員・親）からのヒアリング

出席者：校長 1 名、親（父親 5 名）、地区教育担当官 1 名

就学阻害要因	男子	* 窓やドアがないため、教室が寒い。また、家具が少ないので生徒は床に座って授業を受けており、非常に寒い。
	女子	* 6 学年以降が共学クラスである。教員が不足しているため、男女別の 2 シフトにすることができない。今年のサヌア州の新規採用は 300 人のみ。 * 教室が寒い。
向上対策	男子	* 教室の改築、増築。良い教室であれば、教員もやる気が出る。 * 教員住居の整備 * モスクでの啓発（教育の大切さについて話をしたり、啓発用のチラシを配っている）
	女子	* 教室の改築、増築 * 女性教員の増員
通学費用		* 学校費： 1-9 学年は 150YR、10-12 学年は 250YR。 * 大部分は教育省の郡事務所へ納付。学校に残ったお金は校長が管理し、用途は父会のメンバーと相談して決める。スポーツ用の道具や雑誌を買った。
教員		* 男性 8 名のみ。1 名のみが地元の出身。 * 教員が不足している。特に後期中等教育の教員が不足。 * 男性教員が女子を教えることは問題ない。 * 先週ユニセフと GTZ による 1-6 学年の教員対象の研修がこの学校で開かれた。周辺校 6 校の 25 名の教員が集まった。2 年前に提出した教員のリストに従って研修が開かれたため、研修を受けられなかった教員もいる。この学校が研修の会場になるのは 1 年に 1 回。期間は 1 週間。7 学年と 8 学年の生徒が同じ教室で受け、空いた教室にて研修を行った。 * この他にも研修はあるが、郡教育事務所で行っている。 * 研修用の部屋は、教育省がこの学校に整備するというのであれば特に異論はないが、学校としては特に強い必要性を感じてはいない。
父母会		* 父会のみ。メンバーは 9 人。全員の父親が集まり、選挙を行って父会のメンバーを決める。会長以外には特に役職はない。 * 毎月ミーティングを行っている。学校施設の維持管理、教育省への要求することについて話し合う。 * 教室が不足していたため、父会で話をし、近くの民家を教室にした。
施設維持管理		* 2 日に一度、生徒が清掃を行う。 * 軽微な修繕は父親がお金を寄付し、人を雇って修繕してもらう。
トイレの現状		* トイレはあるが、建物が非常に老朽化しており、壁が崩れており使用不可能。 * 女子は近所の家のトイレに行く。
分校		* 分校が 3 つあり、1-4 学年を開講。教員は各分校に 3 人なので、1-2 学年は複式学級。 * 本校の教室数が増設されれば、分校の生徒も本校で学べるようにしたい。新しい施設ができれば、生徒は本校で勉強することを希望する。ただし、1 つの分校は 5km 離れたところにあり、低学年の子どもは本校まで通ってくるのが難しいため、この分校は残す予定。



男性からのヒアリング



窓ガラスがなく、かなり寒い

(6) 22nd May School (サヌア市)

学校名	22nd May	場所	サヌア市、Bani Alharth 区	訪問日	2005年10月6日
種類	男子校	シフト	午前のみ		
生徒数	男子：1800人	教員数	男性：20 女性：14		

設備は充実している。教室の過密もあまり問題ではないと考えられる。

① 校長・教員・親からのヒアリング (男女同時に聞き取り)

出席者：校長1名 (男性)、教員 (男性0名、女性1名)、親 (父親6-7名、母親1名)、相談員 (ソーシャルワーカー) 1名 (女性)、区教育担当官1名

就学阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の過密 * 未就学児童は家で農作業の手伝いなどをしている。
通学費用	<ul style="list-style-type: none"> * 学校費：150YR/年。その内、9%をサヌア市教育局、6%を区教育局に納め、残りを施設維持管理、行事などに使用する。選ばれた生徒や先生がそれぞれ学校費の使い方に関するアイデアを校長に伝え、それらを校長がまとめて年間計画を作成する。実際にお金を使う際には、校長が会議を招集する。メンバーは区教育局からの経理担当者 (1名)、経験豊かな教師 (1名)、父会メンバー (2名)。全員男性。
教員	<ul style="list-style-type: none"> * 男子校であっても全教員の8%は女性教員であるべきと政府が定めている。男女別教員室あり。 * 教員 (特に男性) は午後働きたくない。以前、学校の過密により2部制を導入したが、午後のシフトに教師が来なかったため、1部制に変えた。
父母会	<ul style="list-style-type: none"> * 父会と母会の両方が組織化されている。 * 父会のメンバー：父親 (10人)、男性教員 (2人)、経験の長い男性教員 (2名)、男性相談員 (ソーシャルワーカー) (1名) の計15名。メンバーは毎年学年が始まる前に選出される。月一回の定期的なミーティングと何か問題があった時に召集される。会議では、教員不足や施設維持管理などの学校の問題を話し合い、教育省にその問題を報告する。また、学校の勉強の内容や進捗状況なども話す。 * 母会のメンバー：母親 (10人)、女性アシスタント教員 (2名)、経験の長い女性教員 (1名)、女性相談員 (ソーシャルワーカー) (1名) の計11名。メンバーは毎年学年が始まる前に選出される。父会同様、月一回の定期的なミーティングと何か問題があった時に召集される。会議では、子どもたちの問題を話しあったり、貧しい生徒の金銭的支援をするため募金活動などを行っている。 * 父会と母会の間には校長が入り、お互いの意見を伝える。父会と母会のメンバーが同時にミーティングを行うことはない。 * 物事の決定権は父会、母会両者にある。ただし、学校費の使い道に関する会議は父会のメンバーのみ召集され、母会のメンバーは参加しない。 * 2003年に教育省が発行した父母会規定 (全国共通) があり、これに沿って父会、母会が組織化されている。 * 母会以外にコミュニティーで組織化されている女性グループはない。
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> * 施設の清掃は、教育省が雇っている3名の清掃員が毎日行う。教員、生徒は清掃を行わない。サヌア市の場合はすべて清掃員が学校施設の清掃をするようになっている。
トイレの現状	<ul style="list-style-type: none"> * 水のタンクがついているが、水洗のバーが壊れているため、使用できない状況。
施設コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> * 普通教室 (27教室)、生徒のみ使用できるアクティビティールーム (1室)、展示室 (1室)、男女別教員室、音楽室、視聴覚室、相談員室、校長室、理科実験室、室内スポーツルーム。
その他	<ul style="list-style-type: none"> * 入学制限あり。モデル校的な学校なので、一クラスあたり40人~60人が最適だと考えている。でも、実際はもっと生徒の需要があるため、もっと受け入れたいと思っている。 * 近くに新しい学校ができれば、この学校の生徒が転校するかとの質問に対し、他に更に過密している学校 (170人~200人/クラス) が約2km離れたところにあり、おそらくその学校から多くの生徒が転入するとのこと。この学校はまだ恵まれているため、移る生徒はいないと予想される。 * サヌア市では、親がどの学校に通うのかを決めることができる。特に学区の設定はない。従って、校長はどの地域から来る生徒でも受け入れなければならない。また、この学校は教育環境が良い学校なので遠くの地域から通ってくる生徒もいる。 * 最も遠くから来ている生徒は5km離れた地域から来ている。

- * 学校の周りにはこれから住居が建つ予定の空き地が沢山あり、今後より生徒が増えることが想定される。
- * 同地区には一校の男子校（この学校）と一校の女子校のみ。
- * 同区には高校が一校しかない。
- * 周辺には 9 学年からの職業訓練学校はあるが、ノンフォーマル教育を行っているところはない。サナア市では他の農村地域と違い、モスクにおけるノンフォーマル教育などを行っていない。



父会・母会、校長からのヒアリング



展示室の用途についてヒアリング

(7) Amna Biwt Waheb School (サヌア市)

学校名	Amna Biwt Waheb	場所	サヌア市、Bani Alharth 区	訪問日	2005年10月6日
種類	女子校	シフト	2部制 (午前: 7 学年-12 学年, 7:30-12:30、午後: 1-6 学年, 13:00-17:00)		
生徒数	女子: 2,400人	教員数	男性: 21	女性: 22	

(6) 22nd May School に隣接している女子校。設備は充実しており、教室の過密もあまり問題ではない。

① 校長からのヒアリング

出席者: 校長1名 (女性)、親 (父親2名)、区教育担当官1名

就学阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> * 学校の過密 * 学校までの距離が遠い。(一番遠くて1時間半かけて通ってくる)
通学費用	<ul style="list-style-type: none"> * 学校費: 150YR/年 (1-9 学年)、200YR/年 (10-12 学年)。その内、9%をサヌア市教育局、6%を地区教育局に納め、残りを施設維持管理に使用する。学校費の使途に関する年間計画は作成してないが、何をすべきかというリストは校長自身が作っている。
父母会	<ul style="list-style-type: none"> * 父会のみ存在。ただし、この父会には母親もメンバーとして含まれている。 * 父会のメンバー: 父親 (4人)、男性教員 (2人)、母親 (5名)、女性教員 (3名) の計14名。相談員 (相談員 (ソーシャルワーカー)) がこの父会の組織化を主に担当するのだが、現在は相談員 (ソーシャルワーカー) がいない。ミーティングは男女一緒に行う。 * 父会の活動: ①学校の問題 (学校の塀を高くする、水の供給など) を教育省に報告する。②施設維持管理。修復が必要であれば父親に献金を依頼する。
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> * 施設の清掃は、学校が雇っている清掃員が毎日行う。教員、生徒は清掃を行わない。学校が清掃員に支払っている給料は 10,000YR/月。(教育省が清掃員に支払っている給料は 12,000RY/月)
その他	<ul style="list-style-type: none"> * 入学制限あり。昨年は 300 人の生徒を受け入れられなかった。 * 塀はあるが、外から中が十分見える。校庭にバスケットボールコートもある。 * 女子は外部から見られることに特に抵抗はない。特にサヌア市出身の生徒はその傾向が強い。農村地域から来る生徒はやはり抵抗がある生徒もいる。



4 学年



校舎外観

(8) Raba School (サヌア市)

学校名	Raba School	場所	サヌア市、Al-wahda 地区	訪問日	2005 年 10 月 8 日
種類	女子校 (1 学年,2 学年のみ男子受け入れ)	シフト	2 部制 (午前: 7-12 学年 午後: 1-6 学年)		
生徒数	2250 人	教員数	正規教員 77 (男性: 15 女性: 62) 外国人教員 10 (男性: 1 女性: 9)		

以前は共学校であったが、住民より女子校にして欲しいとの要望があったため、現在は女子校。1 学年、2 学年のみ男子を受け入れている。

① 教頭先生・事務職員からのヒアリング (男女同時に聞き取り)

出席者: 教頭先生 1 名 (女性)、事務職員 1 名 (男性)

就学阻害要因	* この学校に関しては不明。ただ、Sabaa Phone という電話会社が、未就学児童の調査を行ったところ、経済的理由や家事手伝いが未就学の理由として挙がっていた。
通学費用	* 学校費: 150YR/年 (小中学校)、200YR/年 (高校)。その内、9%をサヌア市教育局、6%を区教育局に納め、残りを施設維持管理、教育家具の購入 (理科室の実験器具の購入など)、学校運営費などに使用する。学校費の使途に関しては校長が責任を持っている。2005 年より区教育局から学校費の使途に関する規則が作られ (図書室に 5%、トイレに 5%など)、それによって学校費を使うようになっている。 * 学校費以外にこの学校独自の収入手段としてスクールバスを運行させ、生徒から交通費を徴収している。学校がスクールバス (16 人乗りのミニバス) を 3 台所有しており、そのバスで生徒の送り迎えをしている。このバスを利用する生徒から交通費を徴収し、この交通費からバス運転手の給料、燃料費などを支払い、残ったお金を学校の運営費にあてている。学校費よりもこの交通費からの現金収入の方が多いため、この学校は学習環境が良いため、遠くの地域から通ってくる生徒が多く、スクールバスを利用する生徒も多い。
教員・学校職員	* 校長 1 名、教頭 3 名、正規教員 77 名、外国人教員 10 名 (シリア人、イラク人、パキスタン人など)、司書 2 名、相談員 (ソーシャルワーカー) 2 名、事務職員 5 名、清掃員 6 名 (内、教育省から雇われている人が 3 名、学校が追加で雇っている人が 3 名)。 * 現時点で教員の不足はない。教育省は必要な教員数を配置している。
父母会	* 父会と母会の両方が組織化されている。 * 父会のメンバー: 父親 (11 人) のみ。メンバーは毎年学年が始まる前に選出される。月 2 回定期的なミーティングを行っている。会議では、全般的な学校の問題 (教員の配置など) や施設維持管理などについて話し合う。また、男子生徒の問題について話し合う。 * 母会のメンバー: 母親 (11 人) のみ。メンバーは毎年学年が始まる前に選出される。父会同様、月 2 回定期的なミーティングを行っている。会議では、父会同様、学校の全般的問題や施設維持管理などについて話し合う。その他に、女子生徒の問題について話す。 * 月に 2 回、父会と母会の代表者と区教育局から来た経理担当官がミーティングを行い、学校費の使い道や、学校問題全般について協議する。 * 教育省が発行した父母会規定 (全国共通) に沿って父会、母会が組織化されている。
施設維持管理	* 施設の清掃は、6 名の清掃員が毎日行う。教員、生徒は清掃を行わない。 * 現在のところ施設維持管理に関する問題には直面していない。 * 施設を点検する人は特に決まっていないが、教員でも生徒でも施設の問題を発見したら、すぐに報告する。また、その他に校長が毎日施設の点検を行っている。 * 施設の問題があった際は、自分たちで修理することではなく、外部に発注している。
その他	* 入学制限あり。先着順。最大収容生徒数は 1 クラス 50~55 名。 * 12 年前に建設された学校。

② 理科教員からのヒアリング

出席者：理科実験教員 1 名（女性）、生物担当居員 2 名（女性）、教育省機材担当官 1 名（男性）

理科教員の 内訳	<ul style="list-style-type: none"> * 理科実験教員 2 名（午前 1 名、午後 1 名）。 * 午前シフト：生物 2 名、化学 2 名、物理 2 名、生物化学 1 名。 * 午後シフト：生物、化学、物理のすべての教科（1-6 学年は 3 つの教科が分かれていないので）を担当する先生 3 名。
理科実験教員の 資格	<ul style="list-style-type: none"> * 科学と生物学を 4 年間大学で専攻した者。 * 理科実験教員になるための資格試験は特にない。 * 上述の大学専攻に加え、大体 8 年～10 年の物理、生物、化学の教師経験があれば、理科実験教員になれる。待遇は理科実験教員になっても変わらないが、いつも授業を持たなくてよいと、なりたっている人は多い。 * 実験器具の使い方に関しては大学で十分なトレーニングを受けている。さらに、理科実験教員になって 1 年後に教育省による教員訓練を受講できる。
理科実験教員の 仕事	<ul style="list-style-type: none"> * 授業が始まる前の実験器具準備や、実験器具保管などを行っている。理科実験教員は実際には授業を受け持たないが、他の先生が教えている時に補助的な仕事をすることもある。
実験器具	<ul style="list-style-type: none"> * 実験器具は教育省の教育機材局から支給される。 * 実験用品が足りなくなると、学校費から学校が購入する。もしくは、近隣の学校から借りる。実験用品を見つけるのが難しいときは教育省が支援する。
理科実験室	<ul style="list-style-type: none"> * 4 学年から実験の授業が始まる。そのため、3 学年までの生徒は本格的な実験はしない。 * すべての学年で週 1～3 回実験室にて授業を行う。ただし、いくつかの器具を普通教室に持ち込んで授業を行える時は、普通教室で授業を行う。 * 物理、生物、化学の授業で実験室を使用する。 * 実験室は二つある。他の学校では教科ごと（物理、化学、生物）に実験室を整備している学校もある。



図書室



スクールバス

(9) G17 Shaba Bahman School

学校名	Shaba Bahman	場所	サヌア州、Nahm 地区	訪問日	Oct. 14, 2005
種類	共学校	シフト	2 部制 (午前: 1-9 学年 午後: 10-12 学年)		
生徒数	男子: 253 女子: 171	教員数	男性: 17 女性: 2		

24 年前に地元の人々の手により少しずつ建てられた。普通教室 6 教室、教員宿舎 2 室 (校長室、教員室、教室兼用)、教員用トイレ 1 つ。教室不足のため、外で授業を行っている。共学校であるが、女子生徒は 10 学年以降は自宅学習。試験の時だけ学校に来ている。自宅学習を進める上でわからないことがあるとサヌア市出身の教師から有料のプライベートレッスンを受ける (150-200YR/週)。

① 校長・教員・父親からのヒアリング (男性のみ)

出席者: 校長 1 名 (男性)、教員 2 名 (男性)、父親 3-4 名

就学阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> * 農作業の手伝い * 身体的障害を持っている * 教室不足のため外で授業を実施しているが、日差しや風がきつく、病気になる生徒がいる。また、教室が非常に過密であるため、勉強は自宅で行い、試験の時だけ学校に来る生徒も多い。 * 女子生徒は、12~13 歳 (6 学年あたり) になると、男女共学のため学校に来なくなる。
就学率向上対策	<ul style="list-style-type: none"> * 絵の大会を開催し、賞を用意。 * サッカーの大会。 * 教室数を増やし、男女別学にする。
通学費用	* 学校費: 貧しい家庭も多く、一律に学校費を徴収できない。そのため、生徒全員で年間 1,000YR 徴収するようにしている (各生徒の支払う額は親の収入に応じて異なる)。徴収した学校費は学校施設維持管理費や教材を運ぶ費用などに使用する。
教員・学校職員	<ul style="list-style-type: none"> * 教員は全員有資格者。内、8 人の教員が地元出身、6 人の教員が他の地域からの出身者。女性教員 3 名は地元出身のボランティア教員。 * 教員宿舎は最大収容人数 6 名なので、地元出身教員以外はこれ以上雇えない。 * 現在 3 教科の教員が不足している。
父母会	<ul style="list-style-type: none"> * 父会と母会の両方が組織化されている。父会、母会が同時にミーティングを行うことはない。 * 父会のメンバー: 父親 (6 人) のみ。2 週間おきに誰かの家に集まって定期的なミーティングを行っている。ミーティングには父親の他に校長、4 人の地元出身教員 (男性) が参加する。会議では、全般的な学校の問題 (教材不足、生徒や教員の問題) を話し合う。父会がこれまでに行ってきた主な活動は、水の供給、教室の建設 (お金を徴収して一教室あたり 4~5 年かけて建設)、教室家具の不足を教育省に報告 (しかし、未だに供与されたことはない) などである。 * 母会のメンバー: 母親 (4~5 人) のみ。父会同様、2 週間おきに誰かの家に集まって定期的なミーティングを行う。ミーティングには母親の他に女性教員が参加する。校長は参加しない。母会の活動としては、地元で識字教室を開いたり、女子教育について話し合ったりしている。識字教室は教室不足のため、学校で行えず、近隣の母親の家で実施している。識字教室には地元のボランティア女性教員 3 名が教えている。この識字教室には他の村からも多くの女性が参加している。
施設維持管理	<ul style="list-style-type: none"> * 施設の清掃は生徒が行う。教員は清掃活動に全く関与しておらず、朝教室へ行くと清掃が終了しているとのこと。女子生徒によると、清掃は女子生徒が行っており、男子生徒は全く清掃活動をしない。従って、清掃活動の計画はない。 * 施設維持管理に関しては、父会が裕福な人々からお金を徴収して維持管理費に使用している。また、施設修理に関しては、父会や村人からのボランティアで対応している。これまでにに行った活動としては、教室の床タイル貼り。
学校施設に対する要望	* 教室、生徒用トイレ、教員室、教員宿舎、識字教育用の教室、理科実験室、女子生徒のためのアクティビティールーム (裁縫室など)、保健室 (学校は崖の上であり、崖から落ちて怪我をする生徒がいるが、近くに病院がない) の整備
その他	* 以前、学校で識字教室を実施しようとしたが、あまりにたくさんの参加者が来たため中止した経緯がある。

	<ul style="list-style-type: none"> * この地域の周辺には教育を受けた女性が沢山いるため、ボランティアで教員として働きたい女性が多い。 * 村の中にモスクがあり、そこで就学前教育（4-5歳）を行っている。教員はボランティア。宗教的な教育ではなく、モスクの場所を借りているだけ。 * モスク内で夕方6時—7時コーランを学ぶ非公式教育がある。（男子のみ） * 識字教室は女子のみ。
--	---

② 生徒（5学年）からのヒアリング（女子生徒のみ男子生徒と離れてヒアリング）

出席者：男子生徒12名、女子生徒5名

通学状況	<ul style="list-style-type: none"> * 通学時間は30分～2時間。 * 同じ地域の生徒は一緒に通学する。 * 女子生徒は一緒に通う生徒がおらず、一人で登校することになっても特に問題はないとのこと。
学校への要望	<ul style="list-style-type: none"> * 男子：サッカー場、バスケットボールコート、追加教室、理科実験室。 * 女子：男女共学は嫌。親も嫌がっている。特に6学年以降は男女別にして欲しい。7学年以降が共学であるために通学していないが、男女別であれば高校まで勉強しても良いと親に言われている。男女共学のため、この地域には多くの学校に通わない女子がいる。周りの人も共学の学校に通う女子は恥だと言う。学校施設としては、裁縫室、コンピューター室、トイレを整備してほしい。
家庭での仕事	<ul style="list-style-type: none"> * 男子：農作業（休日のみ働く生徒もいれば、学校終了後に働く生徒もいる） * 女子：母親の家事手伝い、農作業。（学校終了後）
就学決定者	<ul style="list-style-type: none"> * 父親と母親。
勉強を継続する上での問題	<ul style="list-style-type: none"> * 男子：特にない。 * 女子：男女共学。
シフト制	<ul style="list-style-type: none"> * 女子は午後に授業行った方が、午前中に母親を手伝えるので都合がいい。 * 男女ともに、現在の午前シフトから午後シフトになっても問題はないとのこと。
その他	<ul style="list-style-type: none"> * 女子生徒は6学年あたりからベールをかぶる。



過密している教室



女子生徒からのヒアリング